東成の歴史

シリーズ No.6

“大正のひがしなり”

大阪府文化財愛護推進委員
東成区コミュニティスクール“歴史シリーズ”講師　友田　譲

明治30年の第一次大阪市市域拡張により、鶴橋村と中本村の一部が市に編入されたので、これら両村の西部が市域と隣接する関係から、急激に発展するうちに世は大正と改まり、先ず鶴橋・中本の両村は、大正元年10月に早くも町制をしくことになりました。

大正期に入ると従来の農地はしだいに住宅地に転換され、地価の高騰に伴い土地開発会社の創立出現をみるに至る状態で、かつてはのどかな農村地帯だった当区も、著しい発展の途をたどったのです。

殊に大正3年に大軌電車（現近鉄）が開通し、鶴橋・深江（現今里）両駅が新設され、明治28年開通の城東線（現ＪＲ環状線）と共に交通機関の便に恵まれ、自然人口の増加をみるに至り、各町村の行政も多事に渉り、明治42年の当区の人口は約1万7千でしたが、大正13年には約10万を越す勢いでした。

教育面でも大正4年中本第2（現中道）11年鶴橋第3（現大成）中本第4（現北中道）の各尋常小学校が増設され、14年に深江、15年に片江の各校が新設されたのです。又道路も次第に整備され、上下水道なども各町村毎に漸次整備拡張され、大阪市に編入される条件を名実ともにかね備えて来ました。

大正14年4月に第二次市域拡張により、現区名の「東成区」として正式編入し発足することになり、ここで千年以上の歴史ある東成郡に終止符をうち、伝統ある東成の名称をそのまま新区名として第一歩をふみ出したのです。

初代区長には、郡長であった木下貞太郎氏が就任し、中本・鶴橋町・神路・小路・生野・城東・榎本村・鯰江・榎並町・城北・古市・清水村の12ケ町村で東成区を編成し、当時の人口は23万強であったのと、地域が極めて広大であったため、区役所を旧鶴橋町役場に設置し、第1出張所を今福に、第2出張所を千林にそれぞれ設置し行政を行うようになりました。

昭和に入り東成区から、旭・城東・生野区が分区独立して行きますが、我が東成区のみは1,200年からの歴史ある名称を冠し現在に至っております。

ご意見、ご希望は・・・・・　市立東成会館 (財)東成区コミュニティ協会 TEL6972-0717 FAX6972-0838
Eメールアドレス：enarik@mbox.inet-osaka.or.jp